

分野	52	水資源
施策	522	水の安定供給
<b>5年後の目標</b>		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課	
	<b>低廉な水の安定供給事業</b>	会計	款	—	水道総務課
		項目			
公営企業会計					
事業の概要					
地下水と府営水道の二元水源により安心して安全な水を安定供給するとともに、京都府と受水市町が連携し、効率的な水運用により低廉な水道料金での事業運営に努めます。					

平成28年度の取組							
D (取組)	指標	水道水における府営水ブレンド率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	47.3(平成26年度)	目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
		実績	53.9				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腸菌の検出により東5-2号井戸を取水停止していたことと、東4号井戸関連の導水管を更新するため一時停止していた影響から、府営水道の受水量が増え、市民向けの府営水ブレンド率は50%を超えました。</li> <li>・平成28年12月から、完成しました紫外線処理施設を稼働し、東5-2号井戸の取水を再開しました。</li> </ul>							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成28年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		—		—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腸菌の検出により東5-2号井戸の取水を停止した影響により、市民向けの府営水ブレンド率は50%を超えました。より安全な水道をお届けするために、平成27年度から、東第2浄水場に紫外線処理設備の設置を進めてきた工事が平成28年10月に完成し、停止していた取水井戸を再開しました。今後の市民向けの府営水道ブレンド率についても概ね目標値である50%になるように取り組みます。</li> </ul>	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取水井戸の停止は府営水ブレンド率に大きく影響するため、原水水質の監視だけでなく、取水施設や導水管の耐震化など計画的な施設更新を行う必要があります。また、安心安全な水道水を安定して供給するため、二元水源の確保が必要です。</li> </ul>				

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心安全な水道水を安定して供給するため、二元水源を確保します。また、安定的かつ効率的な水運用のため、計画的な施設更新を行い、市民向けの府営水ブレンド率50%を維持します。</li> </ul>

分野	52	水資源
施策	522	水の安定供給
<b>5年後の目標</b>		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。

概要				
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課
	<b>基幹管路の耐震化事業</b>	会計 款 項 目	—	水道施設課
		公営企業会計		
事業の概要				
自然災害や経年劣化による基幹管路の損壊は市民生活への影響も大きく、復旧にも長時間を要します。自然災害等に負けない強靱な水道施設とするため、計画的に更新・耐震化を進めます。				

平成28年度の取組							
D (取組)	指標	上水道基幹管路耐震化率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	31.6(平成26年度)	目標	32.8	34.9	36.4	40.0	※平成31年度策定の中 期経営計画に基づく指 標設定
		実績	32.5				
・水道事業中期経営計画後期計画(平成27~31年度)に基づき、老朽化した基幹管路(導水管)の耐震化工事を実施しました。							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成28年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・関係機関との調整及び地元住民等の理解を図りつつ、基幹管路の耐震化工事を実施しました。基幹管路の耐震化を実施した結果、平成28年度の目標耐震化率は、ほぼ達成できました。	—
	課題等	・災害時において、市民生活に不可欠な飲料水を確保するため、耐用年数を経過した基幹管路の耐震化を計画的に進める必要があります。			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動) 1: 計画通りに進めることが適当	・今後、基幹管路が大量更新期を迎える中で、健全な財政を維持しながら水の安定供給及び災害・危機管理対策の推進を図るため、耐用年数に加え、路線の重要度等を総合的に勘案し、優先順位をつけたうえで効率的に基幹管路の耐震化を進めます。

分野	52	水資源
施策	522	水の安定供給
<b>5年後の目標</b>	地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要				
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課
	<b>鉛製給水管の取替促進事業</b>	会計 款 項 目	—	水道施設課
		公営企業会計		
事業の概要				
蛇口からの水質保全や漏水防止のため、既存の鉛製給水管の取り替えを順次進めます。				

平成28年度の取組							
D (取組)	指標	鉛製給水管残存率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
		目標	12.2	10.0	8.0	6.0	※平成31年度策定の中 期経営計画に基づく指 標設定
	14.3(平成26年度)	実績	12.4				
<p>・水道事業中期経営計画後期計画（平成27～31年度）に基づき、管路更新工事及び道路整備工事等に併せ、鉛製給水管の取替を行いました。また、勝竜寺他地区において、給水管取替工事を実施し、鉛製給水管の取替を進めました。</p>							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成28年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	・給水管取替工事、漏水に伴う取替、管路更新工事及び道路整備工事等による鉛製給水管の取替を実施しましたが、事業の進捗により、まとまった更新対象地区が減少しているため、目標の鉛製給水管率には及びませんでした。
	課題等			・事業の進捗により、まとまった更新対象地区が減少し、工事箇所が分散され、更新箇所の選定が難しくなっています。今後は、工事箇所が分散され、コスト増も考えられることから、より一層のコスト意識を持ち、効率的に工事を進める必要があります。

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当
	・管路更新事業で、後年時に布設替が予定されている管路も鉛製給水管取替事業の対象路線とし、広報紙等による啓発活動により、対象市民及び近隣住民の理解と協力を得ながら取替を進めます。

分野	52	水資源
施策	522	水の安定供給
<b>5年後の目標</b>	地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課	
	<b>多様な形態の広域化の検討事業</b>	会計   款   項   目	公営企業会計	—	水道総務課
		事業の概要			
水需要の減少により水道料金収入は減少する一方、老朽施設の更新や耐震化など事業費用は増加する見込みとなっています。市水道事業単独での効率化にも限界があり、水道事業を継続して安定経営するため、水道施設の共同使用や経営の統合など広域化を検討します。					

平成28年度の取組							
D (取組)	指標	新たに策定する上下水道ビジョン(平成32～41年)に多様な広域化の方向性を反映				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	乙訓上水道事業 連絡協議会で 多様な広域化に ついて検討 (平成26年度)	目標	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	新たに策定する上下水道ビジョンに多様な広域化の方向性を反映	—
		実績	多様な広域化について検討				
<p>・京都府の府営水道ビジョン中間改訂や京都水道グランドデザイン策定に向けた各種会議のなかで、広域的な連携について検討を進めました。また、日本水道協会京都府支部においても、合同での防災訓練や緊急資材管理状況の情報共有など連携を進めました。</p>							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成28年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	評価指標の傾向・トレンド		対応頁
		—	—	
達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<p>・京都府の府営水道ビジョン中間改訂や、京都水道グランドデザイン策定に向けた各種会議に参加し、広域的な連携について検討を進めています。また、日本水道協会京都府支部においても、合同での防災訓練や緊急資材管理状況の情報共有など連携を進めました。</p>	
	課題等	<p>・将来的な広域化を目標とするには課題も多く検討を進めることが困難となります。まずは、できるところから、多様な形態の広域連携を進める必要があります。また京都府や京都市を中心として、営業業務の共同発注や緊急資機材の共同管理、水道用薬品等の共同購入など、検討を進めていく必要があります。</p>		

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<p>・次期上下水道ビジョン(平成32～41年度)で広域化の方向性を示すため、引き続き京都府や京都市、各市町村と検討を進めます。特に、府営水道の乙訓系受水市町であります向日市や大山崎町とは、乙訓上水道事業連絡協議会において各種検討を行い連携を図ります。また、方向性の検討にあたっては、上下水道事業審議会に諮り進めて行きます。</p>